

ジュニアオリンピック挑戦記録会

(9/15 万博)RESULTS

<男子の部>

C100m 小森 12:21 (+0.2) <決勝> 12:25 (+1.4) 5位

B1500m 奥村 4:38:07 白石 4:27:15

B110mYH 堀本 15:21 (+2.0) JO 参加標準記録突破

神原 16:45 (+1.0) <決勝> 堀本 15:36 (+1.2) 1位

B4×100mR (永井・塩見・神原・砂田) 48:03 8位

C4×100mR (足立・小森・中司・永沼) 50:32 2位

B走り高跳び 神原 DNS

B走り幅跳び 塩見 5m83 (+0.2) 7位

C走り幅跳び 永沼 4m69 (-1.0)

ABC ジャベリックスロー 永井 NM

<女子の部>

B100m 畑田 13:45 (+0.7) 山本光 13:48 (+2.0)

亀澤 13:37 西尾 13:39 (以上+0.7)

C100m 小澤 13:76 (-0.4)

C800m 鈴木 2:29:15 <決勝> 2:32:73 8位

B1500m 木下 5:02:02

B100mJH 亀澤 14:99 (+0.7) 西尾 15:39 (+0.2)

<決勝> 亀澤 15:01 4位 西尾 15:23 5位

B4×100mR (山本光・畑田・西尾・亀澤) 51:16 2位

C4×100mR (川上・畠山・小澤・三瓶) 55:15 8位

A走り高跳び 加藤 1m45 8位

B走り高跳び 沖村 1m30

C走り幅跳び 堀 4m17 (+0.7)

ABC 円盤投げ 藪内 NM

ABC ジャベリックスロー 深野 NM

堀本、土壇場で自己新！標準記録突破!!

ジュニアオリンピック出場を決める!!!

○ 12時40分、Bクラス男子110mYH予選。その1組。記録上位者で固められた1組のシードレーン、4レーンに堀本。この種目のジュニアオリンピック参加標準記録は

15秒30。夏の全国大会参加標準記録は15秒00。中学2年生にとっては、かなり高い標準記録が設定されていることになる。彼のこれまでのベストタイムは15秒53。2日前の茨木市民陸上でも15秒57で走っている。この種目での参加標準記録突破者がいないので、誰も突破者がいない場合はこの大会での優勝者が出場権を得るシステムとなっている。直前のアプローチ練習を見ても何ら問題はない。「アプローチでやや出遅れても、5台目以降のハードリングでどんどん伸びていくリズムを大切にしていこう！」と、本人にアドバイスしている。スターターの「ON YOUR MARKS」の声で彼の動きを見守った。ピストルの号砲とともに、8人の走者がきれにスタートを切る。1台目のアプローチも無難にこなす。5台目あたり、抜き足がハードルと接触してわずかにバランスを崩すが、リズムは変わらない。そのまま先頭でフィニッシュラインを駆け抜けた。速報のデジタルタイマーの標示は『4（レーン）：15（秒）：21』で止まっている。風は公認ぎりぎりの追い風2.0m。「東雲中の堀本くん。参加標準記録突破です！」とアナウンサー。メインスタンドから拍手が巻き起こった。「おめでとう！」の大きな声が東雲ベンチから響く。堀本は大きなリアクションでなかったが、喜びを噛みしめている様子であった。続く決勝でも追い風1.2mで15秒36で接戦を制して優勝してジュニアオリンピック出場に花を添えた。次なる目標はジュニアオリンピックで日本中学2年生でファイナリストになることである。



- Bクラス女子100mJHも、東雲のジュニアオリンピック出場の有望種目であった。この種目のジュニアオリンピック参加標準記録は14秒90。夏の全国大会の参加標準記録が14秒85であることを考え合わせると、これまた中学2年生にとってはかなり高いレベルに設定されている。。亀澤のこれまでのベストタイムは15秒13。西尾も2日前の茨木市民で15秒58にまで記録を伸ばしていた。亀澤にはひとつ不安要素があった。1台目のアプローチが合わないのである。これまでスタートから1台目のハードルまで9歩で走っていたのだが、夏を過ぎてスプリント力がレベルアップした。そのために9歩で詰まってしまう（踏み切りがハードルに近くなって思い切って踏み切れない）ようになってしまったのだ。アプローチを8歩に変える選択肢もあったが、クラウチングスタートの前足と後ろ足を逆にして8歩で合わせるのはあまりにもリスクが高い。朝から9歩でつまらないように、1歩目の刻みを近く



て速くすることで何とか修正させた。

Bクラス100mJH予選1組。3レーンに亀澤。隣の4レーンの豊中14中の川中選手と6レーンの柴島中の富永選手はすでに標準記録を突破していて、亀澤も西尾も14秒90をクリアしなければ横浜への道はない。スターターのピストルが鳴って、3レーンの亀澤の動きを見守った。スピードを落とさずに何とか1台目のハードルを越えていった。ここからの伸びに期待したが、さすがにシードレーンの選手の動きも素早く前に進んでいく。亀澤は4着でフィニッシュ。速報のデジタルタイマーを見て衝撃が走った。14秒65。しかも同じ柴島中の中野選手である。初の突破でこの大記録。これで突破者は3人となった。亀澤も自己ベスト。初の14秒台となる14秒99。素晴らしい記録である。続く2組。4レーンの西尾も無駄のない滑らかなハードリングでこの組の1着。15秒39の自己ベスト。東雲の選手2人がそろって決勝進出を決めた。

13時50分。Bクラス女子100mJH決勝。昼からは風向きを考えて、バックストレートでの逆走。東雲の応援団もバックストレートに移動して陣取っていた。3レーンに亀澤。そして8レーンに西尾。横浜行の切符をつかむラストチャンスとなるゲームである。祈るような思いで2人を見つめた。スターターの号砲で勢いよく飛び出す。亀澤のスピードが1台目で乗らないのがすぐ見てわかった。それでも、後半のハードルで猛烈に追いこんでいく。西尾もわずかの差で亀澤を追いかける。8人の選手が次々とフィニッシュラインを駆け抜ける。4着。亀澤、15秒01。5着に西尾15秒23。また自己ベスト更新である。ジュニアオリンピック出場の夢は叶わなかったが、手応えを感じる素晴らしいレースとなった。来年の夏に2人を絶対に北海道全中に連れていくと決意した。(もちろん、堀本も！そして神原も！！女子のリレメンも！！沖村も！奥村も！！木下も！！！！…etc.) 全国大会に出場することが目標ではなく、全国大会でてっぺん目指して勝負することが目標となる。



- Cクラス男子100m決勝。夏の通信大会の1年100mで優勝している小森にとっては、この種目で優勝してジュニアオリンピック代表選手に。そしてジュニアオリンピック4×100mR大阪選抜チーム入りすることが明確な目標となっていた。一番のライバルは枚方桜丘中学の吉田選手。近畿大会では8位入賞した小森よりも上位の6位に入った選手である。その選手がいきなり予選から11秒90で走り競技場がどよめいた。小森は12秒21で2着。12秒13が自己記録の小森にとってはますますの記録である。迎えた決勝。何とか吉田選手に引っ張られるかたちで小森も11秒台を果たして僅差の勝負を制したい。小森は得意のスタートダッシュで何とか前半から優位に立ちたい

という思惑である。スターターの閃光とともに横浜行き
の切符を求めてきれいなスタート。中盤でも上位5名ほ
どがほぼ横1線。風力計のそばで見ていたので誰が勝
ったのかわからない接戦に見えた。フィニッシュ後の小森
のそぶりを見て、彼が勝者でないことが見てとれた。1
着は桜丘中の吉田選手。11秒89の素晴らしい記録で
ある。2着以降は判定に時間がかかった。2着と3着は
同タイムで12秒22。4着12秒23、そして小森が
5着で12秒25。わずか100分の3秒のあいだに4
人がなだれこむ激戦であった。小森の横浜への道はなくな
った。通信の勝者であった小森が、必ずしも勝者であ
り続けることがないように、これからもライバルたちと
しのぎを削る白熱した戦いが続くはずだ。まだ1年生。夢はまだはじまったばかり。夢
に向かって輝いて日々練習できる選手であり続けることが、夢の扉をこじ開ける唯一の
方法であることをきっと彼が証明してくれるはずだ。



- ジュニアオリンピック出場に関係のない種目であるが B クラス女子4×100mリレーに注目していた。いわゆる2年生だけで組むリレーで2015年度シーズンの共通リレーの行方を占う前哨戦となるからだ。今回の B クラス100mにエントリーされた選手（100m13秒40、200m27秒80以内）は39人。そのうち、4人が東雲で最多となる。西川が夏に膝の手術をしたのでエントリーしなかったが、彼女も13秒40以内のタイムを持っている。しかも共通リレーの3走をつとめていたリレーの中心選手であった。西川が使えなくなったが、夏以降、3走は西尾がつとめていて十分な働きを見せている。4走の畑田を2走にまわし、4走には亀澤が遜色ない走りを見せている。そして第1走者にはスタートダッシュが得意な山本光菜里を起用した。実際、レースでは山本が見事な先兵役をつとめ、畑田、西尾、亀澤ときれいにバトンが渡り、独走となり圧勝。記録は51秒16。この記録でありながら全体では2位。1位は咲くやこの花。50秒16という記録でアンビリーバブル!!前回の通信にも書いたが48秒台対決は必至。そのためには12秒台を4人揃えたい。西川も含めて、来年のリレメン争いが熾烈（しれつ）になる。北の大地で大輪の花を咲かせたい。

